看護部だより
ひまわり
２０１９年１１月
発行責任者　田口　弥生
VoL.62

「スポットチェックモニターの導入に関する取り組み」の発表について

回復リハビリ病棟　飯田

10月5日～6日に東京都で開催されました電子カルテフォーラム「利用の達人」2019年度導入運用ノウハウ事例発表会に参加しました。当院は2018年度からスポットチェックモニターの導入を行っており、テーマ：看護師の働き方改善～バイタル自動転送システムのご紹介～において、「スポットチェックモニター導入の取り組み　全病棟への導入を進めていく中での問題点と改善」としてまとめ発表しました。

スポットチェックモニター導入までに多くのスタッフが関わり、新しいことを始めるためにはさまざまな問題をどのように周知し改善していくかを考えていくことの大切さを学ぶことができました。原稿をまとめるにあたり、相手にわかりやすく伝えることの難しさを感じました。周囲からのアドバイスをもらい、追加や修正をくり返し、原稿やスライドを作りあげ発表することができました。会場で他者の発表を聴き、電子カルテの効率化や、多くの機能を使用していることがわかり、情報システム課や富士通の担当者にも相談できることがわかりました。今後、日々の電子カルテ操作や業務を行う中で使用して手間がかかることや必要な機能などがあれば相談し、少しでも記録の簡素化や効率的ができるように意識して業務に取り組んでいきたいと思います。

看護協会主催

「専門職としての第一歩」を受講して

4階東病棟　松永

私は、今回「専門職としての第一歩」を受講させていただきました。県内の多くの新人看護師が集まり、普段の仕事の様子や抱えている悩みなど、グループを作ってさまざまなことを話しました。話をする中で、私たちのグループで共通していた悩みが、業務に追われ十分に患者さんや家族と接することが出来ていないということでした。この悩みに対して、私たちはタイムマネジメントをもっと細かく立てることや、短い時間の中で、どのようなかかわり方が行えればよいかなど様々な意見を出し合うことが出来ました。自分と同じ境遇にいる人と悩みを話し合えるというとても貴重な機会とすることが出来ました。この経験を活かし、得たことを日々の仕事に活かしていきたいです。

「病棟ナースができる退院支援」を受講して

包括ケア病棟　濱島

８月19日鹿児島県看護協会主催の「病棟ナースが出来る退院支援」を受講しました。地域包括ケア病棟では、自宅退院を目指す患者さんが多く、日頃より退院支援の難しさを実感していました。患者さんの「家に帰りたい」を実現するためには、多職種と連携する事、個別に応じた社会資源を利用する事の大切さを学びました。退院支援に対して、一番大切なのは患者さんの意思決定支援であると思います。今回学びえた知識を活かし、患者さんの「家に帰りたい」を実現する援助をしていきたいと思います。

4階西病棟　重信

今回、病棟ナースができる退院支援というテーマに惹かれ研修に参加しました。病棟ナースが訪問看護へ出向して体験した発表やＭＳＷによる社会制度についても改めて学ぶ事が出来ました。

退院調整看護師の話では退院支援には3段階のプロセスがありその段階を踏みながら問題をクリアしていき退院へ向けて支援していく過程があることを学びました。退院支援、退院調整とは患者さんの人生、再構築を支援していく事で、退院調整の前に意思決定支援が重要で、「患者がどう生きたいか」を軸に患者、家族、医療者、地域が同じ方向を向かなくてはいけないということも学ぶ事が出来ました。

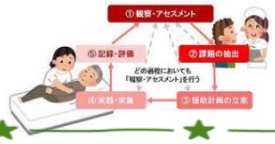
今後、少しずつでも時間を作り、患者さん・家族の意思、意向を確認して患者・家族に寄り添った退院支援を行っていこうと思います。

院内研修

ラダーⅠ「看護過程の展開」を受講して

外来　有村

看護過程とは、患者さんを看護する上で問題点を明確にして計画的に看護を実施、評価するために組織的に行う活動であることを学びました。観察によって得られた情報、バイタルサイン測定、検査データ、医師記録などから看護に必要な情報を整理して問題点や、患者さんが抱えている問題は何かをアセスメントして計画、実施していくことが必要です。また、事例を通して基本情報や検査データ、顕在的問題、潜在的問題を自分だけでは何が問題なのか不足な部分もありましたが、グループで話し合い情報交換することで色々な意見が出て考えさせられる良い機会であったと考えます。この学びを生かし看護を提供していきたいと思います。



ラダーⅡ「記録監査」を受講して

講師：3階東病棟副師長　三宅 佐樹

3階東病棟　切通

看護過程とは何かと質問を受け、漠然と看護上の問題を抽出、計画立案、実施、評価と一連の過程と思っていました。普段当たり前のように情報収集、アセスメント、看護計画立案、評価と行っていたのでいかに正しい看護記録を残すか、記録のルールがいかなるものか再認識する機会を得ました。造語や、和製英語、独自の略語など普段当たり前のように用いていたり、人権侵害や、医療者が優位になるような表記を知らず知らず行っていたのではないかと思い当たる点もありました。事実をありのままに記載し、憶測や主観で記録を書かないよう心掛けていきたいと思います。自身で注意して記録をしていても気づかないこともあります。だからこそ第三者の目線で監査する必要性を再認識しました。看護過程を展開する上で、情報一つアセスメント一つとってもそれらが不足なく、正しく記録されないとうまくいかないし、フィードバックもできず、空回りの状態となります。記録を監査することで、記録が充実し、結果的に看護の質向上につながることを理解することができました。

ラダーⅡ「看護倫理」研修Ⅰ～３を受講して

3階東病棟　森山

講師：外来主任　がん化学療法看護認定看護師　濵田 幸蔵

第1回目は看護倫理の概要について学びました。最初は難しいイメージがありましたが、受講してみて、看護をする上で患者の権利と看護の債務は常に存在し、平等ではなくなると不都合な結果になりそこでジレンマが生じてくるのだと感じました。２・３回目の受講では、事例を用いて実際に分析を行いました。普段行っている行為で「本当にこれでいいの？」と感じることが、分析を行うことで問題が明確化され、解決策などを見い出せることができました。看護のジレンマを感じながら、少しでも患者に対して善をなすことができるように、他職種とも連携を図りながら看護していければと感じました。問題に対して早期に対応できるように、問題提起できるように病棟でも働きかけていきたいと思います。

ラダーⅡ「事故要因分析」Part①～③を受講して

4階西病棟　大谷

講師：医療安全管理者・副看護部長（認定看護管理者）　長井 砂都美

事故要因分析の種類や方法を改めて学び、事故発生後の対応・分析を行い再発防止策を立てる事へ繋げる事ができました。病棟では疾患により理解が得られない事も多く転倒の事案が多く発生します。転倒を予防する為に抑制をさせて頂く事も多くありましたが、今回の研修でスタッフ間での情報共有の重要性を学び、カンファレンスだけではなく、スタッフ同士での情報共有・抑制をせずに転倒を防ぐにはどうすればよいかと話し合う機会をより設ける事ができました。何が要因となってしまったかを各スタッフが今後も意識を持ちながら考えていく事が大切であり、自分自身も今回学んだ事を忘れず、その都度振り返っていきたいと思います。

看護補助者研修「口腔ケアと食事援助」を受講して

4階東病棟　松下

講師：4階西病棟師長　脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　福永　香

今回の研修では口腔ケアの目的を理解し実践することで、虫歯・歯周病の予防・口臭の予防・味覚の改善・誤嚥性肺炎の予防・口腔機能の維持・回復につながることを学びました。又、食事援助の基本はおいしく食べられる環境づくりであり、適切な食事介助・温度・湿度・明るさ・におい・音・清潔な環境・排泄など気になることへの配慮・楽しい雰囲気をつくることの大切さを学びました。今後、食事援助や口腔ケアの介助時には学んだ事をいかし実践していきたいと思います。

院外研修

認定看護管理者教育課程「ファーストレベル教育」を受講して

手術室師長　宝満

19日間、看護管理者教育課程ファーストレベルを受講しました。
これから看護管理者としてどのような知識・技術が必要であるのか、管理者はどうあるべきなのかを考えさせられる研修でした。講義やグループワークを通して、基礎から様々なことを学ぶことができ、管理者としての責任、人材育成、労務環境についてなど、幅広く管理についての知識を得ることができました。また、課題レポートや講義を元に自分の考えを言語化するという過程に難渋しましたが、自分の思いを表現する事で、自分や自部署の問題であった「点」が「線」となり、統合演習を通して課題解決を学ぶ貴重な機会となりました。
質の高い看護サービスを行うために何をするのか、何ができるのか、何をしなければならないのかが管理者に課せられている命題だと考えます。スタッフ一人ひとりがやりがいを持って働き続けられるよう、積極的な支援に力を注いでいきたいと思います。

「第21回日本褥瘡学会学術集会」に参加して

外来主任　皮膚・排泄ケア認定看護師　福山

2019年8月23日・24日の2日間、第21回日本褥瘡学会学術集会が京都で開催され参加しました。その中でポジショニングの根柢には、患者がいかに緊張・ストレスを感じることなく安楽に過ごせるかを思考することが必要と述べられていました。緊張やストレスが呼吸や循環、嚥下に影響を及ぼすためです。単に除圧目的のポジショニングではなく日々の日常生活に合わせたポジショニングが必要とされています。また、アライメント（体軸）という言葉は聞いたことがあるでしょうか。ポジショニングではアライメントの崩れがないか確認し整えていくことが必要となります。アライメントの崩れにより呼吸や循環、嚥下に影響するだけではなく、荷重やずれが加わりやすくなり褥瘡も発生しやすい状態となります。これからは除圧だけではなくポジショニングを行うときアライメントを意識してポジショニングで安楽な心身の状態を保つ事と褥瘡を予防していくことを意識していくようにしましょう。

職場体験

担当：教育指導担当看護師長　田口

近年、教育活動で取り組まれている職場体験学習。
今年度も10月30日れいめい中学校２年生４名、11月8日川内商工高等学校２年生３名の生徒さんが看護師の仕事について体験しました。皆さんの働く姿をみて、「忙しさの中にも、患者さん一人ひとりに笑顔で接し、チームとなって患者さんをフォローしていた姿がとてもかっこよかった」「コミュニケーションを大切にする仕事であり、楽しそうな職業だなと感じた」等の感想がありました。生徒さん方の心に印象を与えてくれた素敵な看護師さんご協力ありがとうございました。

れいめい中学校 2年生のみなさん

川内商工高等学校2年生のみなさん

マイブーム

PFM主任　有川

　最近、息子と一緒に玩具入りの入浴剤にはまっています。バスボムのような丸い大きな入浴剤の中に小さなおもちゃが入っているのですが、種類が豊富でキャラクターも様々あります。トミカが大好きな息子のためにと１個購入したのが始まりでした。泡の中から出てくる小さなトミカに大興奮！喜ぶ姿が可愛くて、ついつい何度も買っているうちに、今ではホームセンターに行くたびに手に握ってきます。1個300円強するので、家計へのダメージが大きいのですが、なぜか主人もこの入浴剤をいたく気に入っており、２人で１個ずつ持ってきます。今まで辛いことがあると、息子の写真を取り出しては「この子のオムツ代を稼がないと…」と自分を奮い立たせていましたが、最近ではバスボム代を稼ぐために頑張っているような…？仮面ライダーゼロワンの最後の１体がなかなか出ないと悲しむ息子のために、母ちゃんは仕事を頑張りたいと思います。

＜ミニナラティブ＞

３階東病棟師長　認定看護管理者　久留須

　７～８年前外科病棟で経験したことです。この患者さんは消化器系のがんで手術・抗がん剤治療を行い長い期間入退院を繰り返していました。自分の病状も十分理解され「最期は苦しみたくない」という意思表示をされていました。いよいよ最期の時が近づき「息が苦しい」と訴えられていました。本当に苦しそうであえぐような呼吸で見ている看護師も辛いと感じる状況でした。鎮静をかけて呼吸苦を感じないようにしてあげたいと看護師は思っていましたが、奥様は「意識がなくなるのが怖い。息子が〇〇県から帰るまで意識を保って欲しい」との要望がありました。患者が「苦しみたくない」と意思表示をされていたのですが、奥様の要望を無視することもできず病棟のスタッフと共に悩みました。結局は残された家族が後悔しないようにとの思いから、奥様の要望に沿う結果となり患者さんの「苦しみたくない」という願いをかなえてあげられませんでした。最近ではＡＣＰに対する認識も深まってきており、意思表示ができる時期に家族と共に話し合うことも推奨されています。この事例を思い出すたびに最期の時が患者にも家族にも辛い結果にならないような看護が提供できるようにしたいと思います。

編集後記

　寒い季節になりました。
インフルエンザの発症も増えてきますので、健康管理に十分気をつけてください。　　（田口）